

株式会社藤塚工業

最新のNCフライス盤導入による、溶接・切削加工の一貫体制強化

製缶フレームの加工において、安定した品質と低価格化が求められてきています。そこで、NCフライス盤導入で生産性の向上を図り、溶接加工と切削加工の一貫体制を強化し、品質ニーズと低価格化を実現し、医療業界等の受注拡大を狙います。

■代表者 代表取締役 藤塚 昌弘
 ■設立 平成7年9月28日
 (創業 平成3年4月)
 ■資本金 4,000千円
 ■従業員数 15人
 ■業種 金属製品製造業
 ■所在地 〒610-0103
 京都府城陽市上津屋柳縄手49番地

■TEL・FAX 0774 (56) 3934 ・ 0774 (55) 4223
 ■URL <http://fujitsukakogyo.com/>
 ■E-mail fujitsukakogyo@io.ocn.ne.jp



事業の概要

当社は、溶接加工と機械加工の一貫作業を強みとして、ここまで成長してきました。当社の事業は溶接加工から始まりました。現専務取締役である藤塚友和の当社への入社後に、機械による切削加工の分野への事業エリアの拡大をはかりました。それまで、溶接加工を施した部品をさらに切削するといった工程は、社外の機械加工業者が行っていました。そうすると、溶接加工された部品の切削工程がうまくできない、切削が難しいといったことが多く発生し、度々問題となっていました。当社はここに注目して、これまで溶接のみであった業務内容を、機械加工にも広げることになりました。これまでノウハウのない事業分野ですので、当社としても多額の投資や多くの苦勞を重ねることになりました。それでも、当社の努力と関係者から支援のおかげもあって、現在の状況に至ることができました。

甲斐あって、京都では溶接と切削のできる企業には、当社のように中小サイズを得意とするようなところは他になく、多くの企業からお仕事を頂けるようになりました。溶接はミリ単位での品質が要求されますが、機械加工ではミクロン単位での品質が顧客企業から要求されます。それまで溶接のノウハウしかなかった当社には大きなハードルとなりましたが、専務のリーダーシップと従業員の頑張りが今日の当社を支える源泉になったと考えています。専務が入社当初、当社はほぼ家族経営による事業の規模でしたが、現在では従業員数も15名と増えて、特に若いメンバーにとって活躍しやすい場所になりました。

現在のような事業分野の拡大にあたり、当初は汎用機によるアナログでの対応をしていましたが、これだと時間と手間のかかる作業となってしまう、コスト面で競争力を保つことができませんでした。そのため、マシニングセンタ、NCフライス盤の導入でプログラミングによる精緻な対応が必要となり、当社でもこのような設備投資を行ってきました。しかしながら、それでもまだ汎用機による作業も残っており、競争力、品質、生産効率の向上、納期短縮のためには、NCフライス盤をもう1台導入する必要がありました。特に、これまで当社が得意としてきている製缶フレームの加工においても、品質と低価格化が求められてきており、取り組みは急務となっていました。

今回の事業では、NCフライス盤導入により生産性の向上に取り組み、溶接加工と切削加工の一貫体制をさらに強化することで、競争力をつけることを目標としました。競争力を強化し、今後は新たな事業分野にもチャレンジしていくことを念頭においた取り組みとなります。

事業の内容

今回の事業の取り組みの大きなテーマとして、生産性の向上とコスト削減がありました。設備導入により、これまで利用していた汎用フライス盤などの比較では、生産速度は2倍程度、生産にかかるコストが約半分という数値を目標としました。

今回の事業で導入した設備は、山崎技研製のNCフライス盤で、溶接された部品の加工が非常にやりやすいことで定評があります。実際のところ、当社では山崎技研の同製品を既に1台導入済みであり、その加工のしやすさを理解していましたので、今回の導入に至りました。

設備を実際に導入した結果、当初の想定どおり、目標としていた生産性向上とコスト削減の数値はクリアすることができました。これまでの汎用機では、作業の手間もかかるために、量産が困難でしたが、新しい設備では生産効率の良さから、既存の設備と合わせると相当な生産能力となり、一定の量産に対しても対応が可能となりました。

2016年10月に設備を導入、翌年1月から本格稼働を予定していましたが、実際にほぼその計画通りの日程での事業実施となりました。しかしながら、今年1月には代表取締役の藤塚昌弘が胃がんのために入院することとなってしまったことで、当初の計画通り事業に取り組むことができなかった面もあり、この点は今後挽回をしていくつもりです。

また、新しい設備導入により、当社の事業分野も広がっていくと考えており、プロモーション活動にも力を入れました。当社ホーム



導入設備

企業概要

当社は、溶接加工と機械による切削加工に特化して、溶接～機械加工の一貫作業により、高品質でかつ短納期生産を得意とする企業です。大型製品を扱う大手企業を除くと、京都では当社のような小型・中型製品の分野でこのような分野で事業を行っている企業は少なく、多くの企業からのニーズにお応えしています。

主要製品

製缶フレーム
産業用機械向け部品加工など

主な保有設備

NCフライス特別仕様	2台
MC特別仕様	1台
アルゴン溶接機	4台
半自動溶接機	10台
アーク溶接機	2台
アルミ専用溶接機	1台
センタードリルマシン	1台
ボール盤	9台
鋳物定盤	7台
鉄定盤	2台
フライス	2台

ページでの案内も行っており、当社について多くの人に認知して頂くことを期待しています。

さらに、この設備導入の事業そのものの取り組みではありませんが、KBS京都で当社のCMを放映してもらっています。当社のアピールというよりは、当社で働く若い世代の中核メンバーに出演してもらい、メンバーのモチベーションを上げる効果がある内容としました。この取り組みによる効果と新しい設備導入により、当社の生産現場は非常に活気がある状況となっており、間接的な面でも導入効果を感じられています。

事業の成果

当社の取引先には当社と同業者が多いのですが、その同業他社にはできない溶接と機械加工の一貫作業を当社は受託することが多くなっています。同業者が顧客となるため、受託の際の要求もおのずとシビアなものとなります。品質面、納期、数量などの要求は厳しく、近年では特に高い精度を求められることも多くなっています。

当社には大きな部品加工を行える設備もありましたが、これだと当社の得意とする小型・中型品向けの作業ではどうしても稼働させる際のチャージが大きくなってしまい、採算が合わなくなってしまいうこともありました。また、これまでは、NCフライスだけでなく、汎用フライスなども併用しながら、業務を実施してきました。汎用フライスではやはり人間による細かな作業が必要となり、品質精度を一定のレベルに保つことが困難なものとなっていました。また、自動機と比較すると生産効率もどうしても低いものとなることが多かったのですが、今回の設備導入により、高いレベルで品質を一定に保持することができるようになったとともに、生産効率も向上してコストの低減と納期短縮を達成することができました。これまで利用していた汎用機は処分し、社内全体の効率向上につながっています。

今回の事業実施の結果、顧客企業からの要求に対して、しっかりと対応ができるようになったとともに、顧客企業からの評価も高まってきました。これまでお付き合いのなかった東京の企業から、当社製品の品質を認めて頂き、取引が継続するようになっていきます。

当社はこれまで比較的近隣の地域の顧客を対象としてきました。それは、物流の負担、品質担保やトラブル対応の面からも近隣地域をターゲットにすることで、業務効率を高く保つことができていました。今回の東京の企業も、当社が直接取引するのではなく、従来の取引先を経由してお取引することができたために受託できています。このように、顧客からの信頼を得られることで、さらに顧客との関係を強化することができていると感じています。



生産風景

今後の事業展開

これまでの記載の通り、当社は溶接・切削加工の一貫体制があり、他社では実現困難な、高品質な製品を短納期、低コストで提供する点を特長とする企業です。今回の事業への取り組みの結果、この特長をさらに伸ばすことができたと考えています。今後も継続して、この特長を活かしながら、より多くの企業に当社を知って頂き、当社をパートナーとして選んで頂けるようにしていきたいと考えています。

特に、今後の方向性として、医療分野への参入も考えています。これからさらにニーズの高まる分野であり、当社の技術がお役に立てる分野であると考えています。